

# 『おおきな木』通級指導教室だより

豊中市立北丘小学校 R6(2024)年度 2025年2月28日 NO. 5



## “聞く”と“聴く”と“訊く”

——「よく聞きなさい」という前に——

『おおきな木』通級指導教室だよりNo.3では、「見る」についてお話ししました。今回は「聞く」についてです。



「話を聞く」ことが大事ということ子ども達はみんな知っています。ところが、先生は言っているのに「聞いてない」という事態がしばしば起こります。

小学生の場合、始めから“聞く気がない”とそっぽ向いていることはまずありません。ではなぜでしょう。

### ①『聞いていることが記憶に収まりきらない』

⇒あふれた情報が「聞いていない」ことになります。3つのことを聞いて2つ記憶に残っているような場合です。

ワーキングメモリーが不足していると言われたりもします。



### ②『聞いているが言葉が理解できていない』

⇒話している方は「わかっている」と思って話していても、かなり違う聞き方をしていることがあります。単語の意味を取り違えていたり、状況そのものがつかめていなかったりします。



「わからなかったら先生に質問しなさい」と言われても、本人はわかったつもりで聞いている場合がよくあります。

一例ですが、『聞き取りテスト』で、読み上げ問題文は「**五**歳のときに $\dots$ 」とあり、質問は「いつですか?」でした。すると、「いつ⇒五歳」とつながらなかった例があります。「何歳ですか?」と言い換えるとすぐわかりました。

耳で言葉を聞き、頭のなかで意味に変換するのは、子どもにとって難しいものです。

### ③『聞いているつもりがいつのまにか注意が他にそれている』

⇒教室で前を向いてしっかり“聞いて”いるのですが、わざとではなく他のことに意識がそれてしまうことがあります。



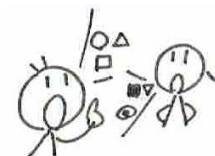
では、どうしたらいいでしょうか。

- ① 話す(伝える)側の「圧」が強すぎると、聞く側の意識に入っていくにくいです。  
それほど大きくない容器に、蛇口全開で水を入れているようすです。はね返って容器の中に水はあまりはいついていません。

ポイントは、大事なことほど、いつもより小さめの声でいつもよりゆっくり伝える。言葉を絞って言葉の数を少なくする。…です。  
とかく、大人は言葉が多い(ひと言どころか三言五言と…)のではないかと、自分を振り返っても反省することが多いです。



- ② 伝わっていると思うことでも「訊ねてみる」「わかったことを話してもらう」と子どもの理解や気持ちがわかります。そのとき、『聞いているかテスト』みたいな感じになると子どもは「わかってるって!」となります。思い違い(世代間ギャップ?! )を楽しむ、くらいの気持ちで訊ねてみてください。

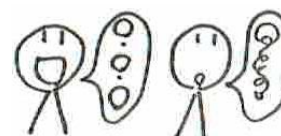


- ③ 日本語は「あ、い、う…」という一音一音でできています。1年生の1学期に「あ・ひ・る」と手を叩きながら口で言うのは音韻分解といい、音韻認識をしっかりとさせるために大切な学習です。1年生くらいの子がダジャレにもならないような「1音ちがい」の言葉を見つけて喜ぶのは、実はとても大事な発見なのです。「しりとりに」や「言葉のなぞなぞ」もいい学習です。  
ところが、高学年くらいになると急に“すべるような”話し方になる子が少なくありません。口をあまり開けず、音がつながり(フランス語みたいに)、結果として“言葉⇔内容”のつながりが薄くなって集中力が薄くなっているのではないかと感じます。  
最近では外国語の得意な人も増え、若いみなさんもますます“早口”でカッコよく話しますが、大人が日本語の音韻や言葉を大切に、ていねいに話したいものです。

「しっかり聞きなさい」ということは大事ですが、

耳で「聞く」⇔脳で「聞く」⇔心で「聴く」

そして大人は子どもに対して常に「訊く」気持ちを持ち続けたいと考えています。



参考文献:イーラボ発達支援テキスト1、2『聞くカトレーニングブック』等

<この『おおきな木(通級指導教室)』だよりは北丘小学校 HP にも掲載しています>

通級指導教室「おおきな木」への入級希望、ご質問、見学希望等がありましたら、  
まず担任の先生にご相談ください (豊中市立北丘小学校 通級指導教室担当:藤木桂子)